アーカディアでの食べ物

W補習校　六年　二組　渡邉　喜

ぼくは今年の夏、メイン州のアーカディア国立公園へ家族旅行に行きました。ホワイトプレインズから八時間はなれた所で、一週間過ごしました。ぼくは、最初はあんまりこの旅行に行きたくありませんでした。家にいて、ずっとビデオゲームをしたり、アニメを見たりして過ごしたいと思っていました。だけど、行ってみたらすぐに楽しくなりました。

アーカディアでは、家族とハイキングをしたり、海遊びをしたり、自転車に乗ったり、バスツアーに参加したり、色々なことをしました。中でもアーカディアの一番高い山から見た人気の夕焼けや、父と弟と三人で二番目に高いペデミック山に登ったことが思い出に残っています。

ぼくがこの旅行で一番楽しんだのは、メインでの食べ物や飲み物です。メインと言えばブルーベリーやロブスターが有名です。

20×20

ぼくが、メインで一番食べた物はブルーベリーだと思います。メインでは、ほとんど毎日ハイキングをしました。山を登る時はとてもつかれますが、どこの山でもブルーベリーが自然に生えているので、いつも取って食べていました。ハイキングをしながら、ぼくは下を一生けんめい見て、草のかげや葉っぱのうしろのブルーベリー探しをがんばりました。少し気をゆるめてしまうと、他の植物のかげになって見失なってしまうかもしれないので、ハイキング中は気がぬけませんでした。ブルーベリーは低い所に生えているので、おじいさんみたいに腰を曲げ曲げ歩きました。がんばって見つけたブルーベリーはすごくおいしく感じ、まさに自然の中にいるという気持ちになりました。ぼくはそのブルーベリーを食べて、ブルーベリーのことを初めておいしく感じました。

ブルーベリーは色々なものに使われますが、メインにはブルーベリーソーダという物があ

りました。そのソーダの名前は「バーハーバー。オールドソーカー」です。バーハーバーはこのアーカディアの近くの町の名前で、オールドソーカーはアーカディアにある小さな岩島の名前です。アーカディアは周辺の海できりがひんぱんに出るため、昔は船長さんが大変困ったそうです。この岩島はきりの中で良く見えないために、何そうもの船をしずませたことが名前の由来になっているそうです。このソーダはメイン州でしか飲めない、アーカディアを代表する飲み物です。甘くてかおりのいいソーダの味は今でもよく覚えています。

最後に楽しんだ食べ物にポップオーバーがあります。名前を聞くとポップコーンのイメージがうかんできますが、実際に食べてみたら、外がかりかり、中がふわふわなパンみたいな物でした。くわしく調べてみたら、このポップオーバは、フランスから来た人たちがアーカディアの中にジョーダンポンドハウス

というカフェを作り、一八九〇年代からそこで出していた食べ物だそうです。長い歴史があったのです。

ぼくはこの旅行で、食べ物を通して自然のことや歴史のことを学ぶことができました。食べ物はすごい力をもっているなと思いました。次の旅行でもまた、食べ物を通して、その場所についてのいろんなことを学びたいと思います。

20×20

迷い猫

LT校　六年一組

延原　伶

ガリガリにやせた猫と、家の地下駐車場で、会いました。長い間、ご飯を食べていないのだろうとすぐ分かるぐらいでした。猫はとても人を怖がっているみたいで、香達を見たと思ったら、すぐに駐車場のすみに置いてある木の間にかくれてしまいました。何でこんな所に猫が居るんだろうと不思議でしたが、いつも駐車場のシャッターを開けると、この時を待っていたハトが私達の車よりも先に、駐車場に入って行くので、多分その猫もシャッターが開いた時に迷い込んで出れなくなったんだと思いました。

次の日の朝、私がずっと猫の心配をしていたのを知っていたお母さんが、猫に水を入れる器を用意してくれたので、水をいっぱいに入れて、忙しいで猫が居る駐車場に行きました。

「猫ちゃん、猫ちゃん。」

返事をするはずのない猫を何度も呼びました。
昨日かくれた木のすき間をのぞいてみても居ません。とり未えず水を木の横に置いて帰りました。夕方、猫の様子を見に行くと、お水が減っていました。よかった。猫は元気だ。だけどまだ外に出られないのだろう。私は、主車場の中を見渡しました。猫の目線になって、しゃがんで見てみると車の下で丸くなって私の動きをじっと見ている猫と目と目が合いました。

「猫ちゃん、お水飲んだね。お腹すいてるでしょ、ご飯持ってくるからね。」

と話しかけましたが、猫はまだ私達を怖がっていました。私とお母さんは、家に帰って人間用のツナ缶を持って行き、猫に話しかけながら前に置きました。少し怖がっていましたがやっぱりお腹がすいていたのでしょう。ご飯をおいしそうに食べてくれました。それから、毎日お水とご飯を持って行きました。二週間を過ぎたぐらいの時、私とお母さんが乗

った車を駐車場に停めドアを開けると、

「ニャーッ、ニャーッ」

と、猫が近づいて来ました。

「猫ちゃん」

と言うと、又

「ニャーッ」

と返事をしてくれるのです。その次の日は、私達が帰って来るのを待っていたのか、車から降りると、走って足元まで来て、

「ニャーッ」

と、すりよってくるので頭をなでてあげるとすごくよろこんで、ニコニコと笑っている様でした。今まで怖がって、近くにも来なかったのに、自分からなでてって来たので本当にうれしかったです。人なつっこくなった猫はアパートの人達にも可愛いがってもらえる様になったみたいで私のあげた水の器の横には沢山の食べ物や飲み物の器が並ぶ様になりました。だけどこのまま駐車場に居てはダメだと思いペットショップや友達に猫を引き取っ

てくれる人はいないか聞いてみたけれど、みつかりませんでした。本当は、私の家で飼ってあげるのが一番良いのだけど、私は二匹の犬を飼っているので無理だとお母さんに言われていました。お母さんが犬の散歩仲間の人達に情報をもらい動物レスキューに連絡する事にしました。だけど、猫は引き取れないと言われてしまい、飼ってくれる人を見つけてあげられないかもと不安になっていました。どうしようか困っていた時に同じアパートのおばさんが、知り合いの人が動物保護団体にいるので、連絡してみてくれると言ってくれました。

それから何日かたって、猫は駐車場からいなくなりました。おばさんに聞いた話では、友達が猫を引き取りに来てくれたそうです。私は猫ちゃんが幸せになって良かったと思いながら、半分は猫ちゃんにもう会えないと思うとすごく悲しくなりました。何も考えずに、ただ可愛いからと言って、人は動物を飼いま

すが、大きくなったり、都合が悪くなると、捨てたり、イジメたりする人が沢山います。この猫ちゃんが、誰かに捨てられたのかバカかりませんが、話しかけると、あんなによろこんで甘えてました。やっぱり動物は可愛がって欲しいっぱい飼い主に甘えたいんだって思います。だから動物を飼う時には、その子が死ぬまでお世話をしてあげる気持ちで飼ってあげたいと思いました。そして、可愛そうな動物達がいない世界になって欲しいと思いました。

20×20

日本とアメリカの小学校

ニューヨーク補習校　六年二組

コクリー美木子

私は四年前から、毎年夏になると、日本に帰って、日本の小学校に通っています。アメリカでは、夏休みは十週間以上あるのに、日本の小学校は、夏休みは五週間しかありません。だから、アメリカの学校が夏休みになってからすぐに日本に帰れば、日本の学校に一ケ月ほど遅れるのです。

もう四年も毎年同じ学校に行っているので、先生たちも、お友達も私のことを覚えていてくれて、日本の学校に行くのは、毎年とても楽しみです。でも日本の小学校とアメリカの小学校は、すごく違うので、おどろいてしまうことばかりです。

まず一番ちがうのは、生徒たちの学習態度です。アメリカでは、たくさんの生徒たちが先生の言うことを聞かず、クラスはいつもとてもうるさいです。しかも、クラスで悪いこ

20×20

とをしても、まず最初はワーニングといってすぐにはおこられません。日本では、クラスに四十メ近く先徒がいて、先生は一人ですが、私の行っている学校では、生徒たちは先生の言うことをちゃんと聞いて、しっかり勉強します。アメリカの生徒たちのような行動をとったら、ワーニングなしですぐに校長先生のところに行かさせると思います。日本の生徒は、先生に口ごたえするなんてことは、考えもしないと思います。だから、日本の学校のクラスは、速く進むし、勉強しやすいです。

それから、日本の生徒は、とにかく学校が好きです。学校が終っても、ずっとおそくまで学校でお友達と遊びます。それから、みんな歩いて学校に行くので、学校の終ったあと、みんなで公園に行くとか、より道するとかいうこともできます。一度家に帰ってから、また学校に戻って遊ぶ子もいます。それは、とても楽しいと思います。アメリカでは、生徒は、クラブ活動がないかぎり、バスに乗って

すぐに家に帰ります。みんなバスに乗りおくれないように、ベルのあと急いで帰ります。学校のあと、お友達と遊びたかったら、プレイデートの約束を前もってして、どちらかの家で遊びます。アメリカでは車で移動するしかないので、こうなるのだと思います。日本では、小学生でも一人で電車に乗っています。留守番も一人でしていいそうです。はじめて見たときは、本当にびっくりしました。

でも、日本の生徒はかわいそうだなと思うこともよくあります。まず、日本の先生はとてもきびしいので、授業はとてもきびしくてあまりおもしろくありません。アメリカの先生は、もっと友達みたいにジョークを言ったり笑ったりするし、楽しいゲームのようなクラスをよくするのでクラスはアメリカのほうが楽しいです。

そしてなによりもかわいそうなのは、じゅくです。私のいとこの花穂ちゃんは、今五年生ですが、来年は中学校に入るためのテスト

を受けるので、もう今から週三日学校のあと、じゅくに行きます。じゅくというのは、学校のあとに行く学校です。しかも、じゅくは一日三時間から四時間あります。来年は、六年生なので、じゅくは毎日になるそうです。しかも、五週間しかない夏休みのほとんど毎日がじゅくです。私達と一緒に海に三日間行こうと思ったら、結局一日しか行けなかったし、週末もテストがあったりクラスがあったりします。アメリカでは、勉強のできない子が、学校のあとクラスに行きますが、日本では、できる子は、もっとたくさん勉強しないといけません。

アメリカと日本の小学生はすごくちがいます。どちらにもいい所と悪い所があります。でも、私はアメリカの学校に行けてよかったと思います。なぜなら、学校のあと、毎日、じゅくに行きたくないからです。

「おじいのとり」

L I 校　六年一組
園　慈瑛

沖縄に住むおじいは、ヤギ、ポニー、アヒルやニワトリなどといっしょに住んでいます。ぼくは、今年の夏、おじいの動物のうんこそうじをいっぱいしました。えさやりもしました。とくにぼくの好きなお手伝いは、アヒルの赤ちゃんのえさやりです。

アヒルは、飼料のほかにもキャベツ、にんじん、ゴーヤー、ナス、トウガン、キュウリなどのたくさんの野菜をミキサーで細かくきざみ、あたえます。そのエサをエサおきばに入れるしゅん間、アヒルたちはエサばこにヅャンプしエサを食べます。ぼくは自分に、

「なぜアヒルは自分のエサに足をつけるのかな？」

と言いました。もう一つ面白いのは、アヒルがひと休みする所はうんこだらけのことです。アヒルのことをさらに観察すると、アヒルの

体はまっ白なのに、お腹が茶色なことがわかりました。ぼくと弟は大笑いしました。アヒルたちはさわられるのがいやなので、あんまりさわれません。昼を過ぎると鳥たちの寝る場所に入れます。最初、犬のゲージに入っていましたが、今は、おじいが作った手作りの大きなゲージに入れます。

「なぜゲージに入れないといけないのか？」聞いている人はいますか？なぜなら、アヒルたちを食べる動物がいるからです。たとえば、ハブ、マングース、いたち、やカラスは、アヒルたちをごちそうにします。だからアヒルたちをゲージに入れます。ぼくたちは両手にアヒルを一わずつつかまえゲージに入れます。自分で勝手に走ってゲージに入るアヒルたちもいます。

ぼくが二番目に好きな鳥はチャボです。おじいが飼っているチャボの中で一番きょうぼうなのはかむくんです。赤いとさかがでかくかむ力も強いです。

「なでかむくんという名前がついたのか？」

名前のとおりかむくんはなんでもかむからです。手を出したらかみます。かむくんのぬけた羽を見せたらかみます。でもかむくんが一番大きらいなのは、青色です。ぼくが青色のツヤツヤでかむくんをもつと観察するためにしゃがんだら、かむくんの特別技をかけてきました。ツンプがみをぼくのかたにしてきました。めちゃくちゃ痛かったです。かむくんをゲージに入れる時もかまれます。でも弟は平気にかむくんを持ち上げ、ゲージに入れます。すげーなー!!でもぼくは怖すぎて持ち上げれません。

おじいの鳥を見てぼくは鳥が好きになりました。だから鳥を見たらいつも観察したくなります。ぼくが百年だからでしょうか？

言葉って何だろう？

W校　六年　一組
山中　樹

二年前、僕がアメリカに引っこしてきた時僕は英語を話せませんでした。でも英語以外のコミュニケーションを使って、僕は友達を作りました。それはジェスチャーです。学校で男の子が集まっている所に行って、変な顔などをして遊んでいると、自然に友達が出来ました。あと、みんなで笑い合ったりすることで、相手の良さが分かったり、相手が楽しんでいる姿を見ることによって、更に仲良くなれます。

他にも、スポーツなどをすると、言葉なしで相手のことを知ることができます。例えば、僕はサッカーをしていますが、小さい頃からやっているので、試合の流れにそって、適確なパスを出したり、ロングシュートを決めてチームを引っぱってこれました。スポーツでは上手な子は頼られます。サッカーで活躍

20×20

するこにより自然と仲間が集まってきます。

また、僕は今、ねこを飼っています。ねこは日本語も英語も話せません。でもねこには感情があります。考えだってあります。だからねこは動きで物を伝えます。例えば、だっこして欲しい時は、甘えた声でなき、しっぽをからめてきて、あと相手の目をじっと見つめます。他にはおやつをあげようとすると、戸だなをあける音を聞いて、ダッシュしてきます。そしてうるうるを出すと、目をらんらんとかがやかせ、必死に見つめています。実際におやつをあげるし、目の色を変えて、食べます。目の色を変えると言いますが、本当に瞳がかがやいているのです。

言葉が通じない相手には近くによりそい、相手の表情を見て、相手の気持ちを考えます。そういうことをくり返すことにより、相手との距りが近づき、仲良くなることができます。更になもっと仲良くなるために、よりいっそう相手を楽しませたくなります。

気持ちがよりそうためには言葉はいらないのかもしれません。なぜなら、ジェスチャーが言葉の役割を果たしてくれるからです。

でも言葉は便利です。なぜなら、言葉を使うことによって、より細かい気持ちを語れます。例えば、もしうれしいのなら、どううれしいのかも、もし悲しかったら何故悲しいのか、どうしたら悲しくなくなるのかをより具体的に伝えられるのです。

言葉とは、気持ちを正確に伝えるための道具です。ですが、言葉だけでは完ぺきに気持ちを伝えることはできません。だからこそ、ジェスチャーと言葉の両方を使うのです。そして何よりも、相手の立場に立って、相手を思いやることが大切です。この心を互いに持っていればみんなももっと仲良くなれると思います。

私とごはん

ニュー ヨーク補習授業校 W校　六年一組
的場　千奈

　私は、白いごはんが大好きだ。ふっくらしてつやつやの真っ白いごはんが大好きだ。私は、今年の夏休みに母からごはんのたき方を習ってマスターした。私の家では、電気炊飯器を使わずに土なべでごはんをたいている。土なべでたいたごはんは、とてもおいしい。

　ごはんのたき方は、次の通りだ。まず、お米を計る。私の家の土なべは、三合だきだ。お米を計量カップで三合計る。一合が180mLなので、180mLを三回計る。そして、お米を2～3回水で洗う。洗った水が最初は白くなるけれど、水がとうめいに近づけば大丈夫だ。そのお米を、土なべに入れて水600mLを入れて、ふたをする。ふたは二重ぶたになっている。

　肉ぶたに穴が二つ、外ぶたに穴が一つある。その穴が垂直になるようにふたをする。次に、20～30分間水にひたしておく。お米に、しっ

かり水を吸わせるためだ。その後、中強火の火をつけて、12分間ごはんをたく。たき終わったら火を消して、15分間むらす。最後に、ごはんをさっくりまぜてできあがり。たきたてのごはんは、キラキラ光ってとてもきれいだ。

私は、小さいころから、ごはんが大好きだった。小さいころの写真を見ると、おにぎりを持った写真がたくさんある。あと、両親からこんな話を聞いたことがある。ようち園の時、アメリカ旅行をした。その時、最初の3日間はパンやシリアルなどのアメリカの食事を楽しんでいたそうだが、4日目から私はだんだんとごはんを食べたくなって、「なっ」とうごはんが食べたい。」と言い出したそうだ。

泊まっていたホテルには、ごはんはおいてなくて、父と母は困ったそうだ。私は、お腹がすいても、朝食のパンやシリアルを全く食べなかったので、その日のお昼はおすし屋さんへ行き、「なっ」とう巻きをおいしそうに食べた

たのだ。

　なぜ私がごはんが好きかというと白いごはんは、どのおかずにも合うからだ。例えば、カレー、ハンバーグ、とんかつ、おみそ汁、焼き魚、マーボーどうふ、からあげ、おさしみ、などまだまだある。おいしいごはんがあると、おかずもおいしく食べられる。もちろん、白いごはんだけでもおいしい。今も、おにぎりは大好きだ。自分でたいたごはんは、特においしく感じる。いつもより、そう感じる。そして、おいしくたけた時は、達成感があってとてもうれしい。家族のみんなからもおいしい。と言ってもらうと、もっと作りたいと思うようになる。

　ごはんをおいしくたけると、毎日の食事が楽しみになる。食事が楽しいと、元気になる。これからもおいしいごはんをたいていきたい。

20×20

きれいな水は平和な未来の第一歩

W校　六年一組
神谷　心彩

世界の人がみんなきれいな水を飲める事が平和な暮らしの第一歩であり、よりよい未来への第一歩だと思います。私たちの住むアメリカや日本ではあたり前のように毎日きれいな水を飲んだり使ったりする事が出来ますが、世界にはそれが出来ない国がたくさんあることに私は最近気づかされました。

アフリカのある国では、きれいな水が家になく水道もないので、水を飲むために女性や子供たちが水を汲まないといけません。水を汲むためには暑い中、毎日何時間もかけて歩いて行かなければならないし、両手に何キロもある重い水を持って歩いて帰らなければなりません。そしてそれだけではありません。こんな大変な仕事を毎日やらなければいけないので、子供は学校に行けないし、女性も社会に出ることが出来ません。子供が学校に行

20×20

けないと、勉強が出来ないので、子供たちは、しょう来そういう事を解決できる知恵を持てなくなってしまいます。私は「水までの長い道のり」という本を読みました。著者はサルバ＝ダットで、著者自身の経験を本にしたものです。この中でサルバは彼のアフリカの村できれいな水が手に入らないから病気が広がることなどを書いています。彼は米国で勉強し、お金を集め井戸をほります。この井戸が、アフリカのある村の人々を救います。

ただ、女性や子供が水汲みに行けないなら男性が行けばいいと思う人がいるかもしれません。しかし、こういった国の男性たちは他の危険な仕事があったり、家族を守るために戦争に行ったりして村にはいない事も多いのです。ですからどうしても女性や子供たちがこの仕事をすることになってしまうのです。

私は、みんなが簡単にきれいな水を手に入れられればいいと思います。そのためにはサルバのように、外から助けてあげる事も大切

だと思います。生きて行くためにはきれいな水は絶対に必要だし、幸せな生活や未来のためには、欠かせないものです。きれいな水が簡単にだれにでも手に入るようにする事は、平和で幸せな世界をつくる第一歩だと思います。

20×20

わたしのミックスカルチャー

L工校　五年一組　山際　歌音

わたしには色んな国のカルチャーがいっぱいあります。わたしは、アメリカ人であり、日本人であり、ジャマイカ人でもあります。今からわたしは、自分のカルチャーの事を話します。

わたしは、アメリカで生まれました。わたしは生まれた時からニューヨークに住んでいます。そして、今はマンハッタンに住んでいます。わたしが通っている学校はバンクストリートといいます。わたしはバンクストリートで英語で勉強をします。バンクストリートでは人種、性別、LGBTQなどについて勉強するので、アイデンティティーについて深く学ぶことができます。それを勉強する事によって、人を見た目で判断するのではなく、ちゃんと知る事が大切だと学びました。ニューヨークでは色んな人と友達になれました。わたしの母さんは日本で生まれ、育ちまし

た。わたしのお母さんは20才までアメリカにきました。わたしは家で日本語をしゃべっています。土曜日にわたしは日本語学校に行き日本の文化を学びます。日本語学校でわたしは友達がたくさんいます。

毎年日本に三週間行きます。日本にはわたしの家族が住んでいます。新潟には、おじいちゃんとおばあちゃんとひいおばあちゃんが住んでいて、東京にはおばちゃんとおじちゃんといとこが住んでいます。わたしと同じ年の友達は日本にはいません。友達がいたら、友達どうしで遊びに行けるのでもっと楽しくなると思います。

日本ではおいしい食べ物や飲み物を買ったり、アメリカでできない事をやります。家族みんなで花火をやったり、温泉に行ったり、家族旅行に行くのが楽しみです。わたしは、八月生まれだから日本で誕生日をお祝いするのが楽しみの一つです。

日本の人は、やさしい人がたくさんいます。

20×20

ごみを捨てたりしないで、かんきょうを大切にしていると思います。お母さんは、いつもおいしい日本食を作ってくれます。お母さんはいつも野菜をちゃんと食べなさいといいます。わたしは、しょう来日本に住んでみたいです。日本が大好きで三週間では足りないかう、一年を通してどういう生活をするか体験したいです。

わたしのお父さんは、ジャマイカで生まれ、十四才でニューヨークに引っこして来ました。わたしはジャマイカの食べ物がとても好きです。味がつよくて、スパイシーなところが好きです。お父さんの家族はほとんどフロリダに住んでいるので、たまに会いに行きます。お父さんの家族は、はっきりものを言ってたまにこわいけど、家族思いでいい人たちです。わたしには、この素晴らしいろつのカルチャーがあって恵まれていると思います。どれもいいところがあって、楽しい事があるので三つとも経験できることはとても素晴らしい

と思います。全て自分の一部なので大切にしていきたいです。

20×20

ダンスキャンプ

W校　五年　二組
武田　梨里

私は、小さい頃バレエを習っていました。姉が習っていたから始めただけで自分の意志ではありませんでした。何回かステージに乗り、発表会も出たけれど、あまり出番がなく楽しくありませんでした。間もなく私はバレエをやめて水泳を始めました。水泳はバレエのようにぶ台裏で待っている時間がなく、いつも動いていられるので楽しく、友達もすぐに出来ました。それからステージに乗る機会はなくなったのです。

アメリカに来て一年が過ぎ、姉が通う中学校の友達が出演するミュージカルを見に来ないかとさそってくれました。げきは素晴らしく、自分もいつかや'てみたいと思いました。ある夏休みの日、クラスメイトからダンスキャンプに参加してみないかというさそいがありました。それは、一週間みんなでおど

りやえん技を習い、両親や友達に完成した作品を見せるというものでした。どのようなげきなのかをいろいろ調べたら面白そうだったのでやってみることにしました。

最初の日、半分ドキドキ、半分ワクワクしていました。メンバーが集まってみると、男の子が一人、女の子が九人しかいないことに気付きました。ごくaの good boy、Cast をご存知でしょうか？スヌーピーのアニメーションの一つで少なくとも三人は男の子が必要です。なので配役を決める時、私は男の子のライナスになりました。読み上げる文が多かったので、暗記出来るか心配していました。

自己紹介などをしてキャストのみんなと知り合いました。そして、ダンスを覚えて、休憩時間。午後はスクリプトの読み上げをしながらえん技を学ぶ。このように一週間が過ぎるのです。まずみんなで座ってフリをつけず一周しました。すると、どのシーンにもライ

ナスである私は出ることが分かりました。

次の日、衣しょうを着てみました。ライナスは毛布をどこにでも持っていくので有名ですので、私の衣しょうの一つが持ち歩く毛布でした。水色のティーシャツに水色の毛布、見るだけでワクワクしてきました。

本番の日、会場に着いてすぐみんなでリハーサルをしました。ぶ台は広く、きれいでした。カーテンもライトも新しい物だと聞きました。ぶ台まくではいろいろな用具が置いてありました。今まで以上にワクワクしてきました。二回練習してからピザを食べてメイクアップタイム。女子役はかみの毛にリボンを付けて、ステージメイクアップをつけますが、男子役は何もつけません。バレエをやめた理由の一つはメイクアップがきらいだったからです。メイクがないときいて正直ホッとしました。メイクアップが終わると、みんなで衣しょうを着用最後のリハーサルを終わらせ、本番となりました。

20×20

最初はとてもはずかしくて、お客さんの方を見られなかったけれど、勇気を出して大きな声でセリフを言ったら、勇気がわいてきて、その後はスムーズに言葉が出て来ました。

楽しくえんじられたのは良かったのですが、今回ライナスのとぼけたキャラクターや幼さをうまくえんじられなく、役作りがたりなかったと反省しています。つぎはしっかりキャラクターのことを勉強し、その役になりきってえんじたいです。バレエは私自身がやりたいと思ったことはなかったけれど、今回は、アメリカで見てきたミュージカルに心をうばわれた自分の意志で挑戦しました。台詞を間ちがえた時も、友達に支えてもらったりしてキャストのみんなとの深い関係が出来て、良い夏休みの思い出になりました。

20×20

青のどうくつ

L工校　五年一組
猿見田　美汐

そのどうくつの中は、青く青く光輝いていました。

今年の夏休みは、家族でイタリアに行きました。ローマでコロッセオを見に行ったり、ヴェニスでゴンドラに乗ったり、素敵な事をたくさんしました。けれども、一番心に残ったのは、ナポリ沖にあるカプリ島のツアーでした。

カプリ島で小船に乗ってどこかに行くことは聞いていましたが、それ以外の事を聞いても、母は内緒にして、にっこり笑いながら、「楽しみにしててちょうだい。本当にすごいから」。

と言うだけでした。ツアーバスではとてもワクワクしました。「めずらしい魚がいるのかな。それともローマていい国の海のいせきかな。」

私は一生けん命に色々考えました。ナポリで

ツアーバスを下りたら、高速船に乗ってカプリ島まで行きました。そこから三〇人くらいまで乗れるもう少し小さな船に乗ってとても小さなどうくつの近くまで行きました。船の上で、とても長い待ち時間が終わって、いよいよ私達の小船が近づいて来ました。私と姉と母は片側に乗り、父は反対側に乗りました。小船はよったよったとどうくつの方へゆれて行きました。カメラを用意してどうくつの高さ八〇センチしかないとてもせまい入り口から、私達は入って行きました。どうくつは夜のように真っ暗でした。けれども次のしゅん間、私はどうくつの海にくぎつけになりました。真っ暗のはずの海は青白く、サファイアのように光っていました。とても美しくて、けれどもミステリアスでした。まるで水の中から人魚やりゅうなどが出て来そうな感じで、私は不安な気持ちで周りをきょろきょろ見ていました。この青白く光っている海のどうくつで、かべに反きょうしている船頭さんの歌

20×20

を聞いていると、まるで海ぞくのぼうけんに来ているようでした。

どうくつにいた時間は五分くらいで出て来てしまいました。けれどもこの短い時間で見たのが私が今まで見た中で、最も美しいと思った自然現象でした。私は青のどうくつの事はいつまでもわすれないと思いました。

日野原重明先生へ

L工校　五年一組

川上絵美里

去年、私は十歳の時、日野原先生が十年前に書かれた「十歳の君へ一九十五歳のわたしから」と出会いました。今年の夏、日本にたい在中、私は日野原先生が他界されたというとても悲しいお知らせを聞きました。でも、日野原先生のお言葉は、ずっと私の心に残っています。私は、その本の最後の行に書いてある「どうか、きみたち、よろしくたのみますよ。」という先生のお言葉にお返事を書きたいと思いました。平和を実現することは、とてもむずかしいことです。でも平和を実現するために、私が今できることを考えてみました。

一つ目は、戦争と世界について、もっと知ることです。私は、毎年夏休みに、おばあさんのいる広島に行きます。そして、原ばくが落とされた、八月六日午前八時十五分にもく

とうをします。八年前に亡くなった私のひいおじいさんは、原ばくが落ちた時、広島にいました。そして、ひいおじいさんは、私の母に原ばくのお話をたくさんして、私の母は、私にその話をしてくれました。私は、戦争がとてもおそろしいと心から思いました。原ばくで亡くなった人はたくさんいるのです。そんなおそろしい戦争は、二度としてはいけないと思います。世界では、まだ戦争をしている国があります。本当に残念に思います。

二つ目は、多くの人とコミュニケーションが上手にとれるようになることです。多くの人と話すと、たくさんの事を知ることができるし、友達もふえます。私は、補習校で日本語を学んでいます。そして、毎年夏休みに体験入学で広島の小学校に行きます。だから、日本語を話す友達がたくさんいます。現地校では、英語の他にスペイン語、フランス語、イタリア語を学んでいます。なので、世界中に友達をつくって、たくさんの人と仲良くな

りたいです。

三つ目は、相手の立ち場を考えられる人になることです。日野原先生は、「自分だけが安全で快適ならばそれでいいんだと思っているかぎり、わたしたちは、いつまでたっても平和を実現できません。」とおっしゃいました。だから、私は人の気持ちや相手の立ち場を考えて、困っている人がいたら、助けたいと思います。

最後に、一番大切な事は、自分が健康でいることです。自分が健康でなければ、がんばることも出来ないし、人を助けることも出来ません。だから、私はたくさん栄養のある物を食べて、たくさんねて、たくさん運動をして、健康でいようと思います。

私は、先生からたくさんの事を学びました。命の大切さや、平和について考えることが出来ました。私は、平和のために今出来る事をがんばります。日野原先生、天国から見守っていてください。

20×20

グランドキャニオンの自然の中で

W校　四年一組
中尾　光き

ぼくは、日本から遊びに来た祖父母と八月にグランドキャニオンを旅行しました。グランドキャニオンは、アリゾナ州の北西部に位置するけい谷です。ぼく達は、車で一週間かけてラスベガスからアンテロープキャニオン、モニュメントバレー、そしてグランドキャニオンと周りました。

モニュメントバレーは、何もない砂ばくの真ん中に東京タワーぐらいの高さの大きな山岩がとつ然現われてきます。ラまで見たことのない景色

は、まるでうちゅうにでもいるようでした。

アンテロープキャニオンは、どうくつの屋根にあながあいていて、そこから入ってくる陽の光に砂を投げると、砂が陽ざしに照らされて、とてもげん想的でした。外からは、この岩の中にそんな場所があるとは思えなくて、昔の人はこの場所を発見した時、これは神様からのギフトだと思ったんじゃないかと思いました。けれども、一番すごかったのは、グランドキャニオンです。

グランドキャニオンは、スペイン人たんけん家が一五四〇年に発見した谷です。コロラド川にけずられて

できたこの谷はとても深く、谷底にある ロッジが小さな点にしか見えないぐらい深かったです。もっとしかり谷底を見たくてがけの先たんまで行くと、足がこわばって、ぼくのおしりがスースーしました。カメラを手にした祖父も、よい写真をとろうとぼくが行ったがけのさらに先、がけのギリギリまで行くので、ぼくは思わず

「じじっ。」

と大きな声でさけんでしまいました。そのしゅん間、そこにいたみんながいっせいにぼくを見たので思わず、

「ソーリー」

と、苦笑いをしました。その点に見

えたロッジには、とまることができるので、いつがそこまでハイキングをしてみたいです。

ぼくが行ったそれぞれの場所は、ぼくに全くちがう思い出をくれました。ですが、一つ共通して感じたことは、自然はすごい力を持っているということです。この自然の中でぼくはどれだけの力があるのだろう。ぼくは、これからも自然を大切に生きたいです。

体験！発見！工場見学

L工校　四年二組
高橋　勇登

ぼくは、工場見学に行くのが好きです。なぜかというと、自分の目でいろんなことを発見できるからです。今年の夏は、初めてかつお節の工場へ行きました。ぼくのおじいちゃんおばあちゃんが住んでいる高知県は、かつおのタタキやかつお節が有名です。母から、かつお節の工場見学があると聞き、ぼくは「行きたい！」とお願いしました。

ぼく達が行ったかつお節工場は、土佐市宇佐町にあり、港まで歩いて五分という海のすぐ近くでした。そ

の日はよく晴れていて、歩いているだけであせをかくほどでした。駐車場に着いて車からおりたとたん、ぷうんとかつお節のいいにおいがしました。ぼくはわくわくしてきて、早く工場の中に入りたくなりましたが、社長の竹内さんはなかなか来ませんでした。やっと来た。と思ったら、駐車場のおくの方に移動して、かつお節を作る工ていの説明が始まりました。最初に工場へ入ると思っていたぼくは、少しがっかりしました。でも、話しを聞いていたら、知らないことがたくさんあっておどろきました。

かつお節ができるまでの作業は、

まず、生のかつおを四つに切ってゆでます。次に、手作業でていねいにほねを取ります。その後、すき間にすり身を付けて形を整えて、五階建てのくんえん棟でまっ黒になるまでけむりでいぶします。それから、グライダーで表面の黒こげをけずります。そこからさらに、かび付けと天日干しを四回くり返します。こうして、かつお節ができあがるまでは約半年もかかります。それを聞いて、ぼくはびっくりして「半年も?!」と心の中でさけびました。おどろいたのは、それだけではありません。やっと出き、あがったかつお節の重量は、わずか一割六分までへるそうです。

さわってみたら、トンカチみたいにカチカチに固くて、とても小さくなっていました。見学の最後に、かつお節とかつお節のだしをごちそうになりました。目の前でけずってくれたかつお節は、うすくてふわっとしているのに、かつおの味がしっかりしました。おだしはうま味があって、すごくおいしくておかわりしたくなりました。

竹内さんによると、かつお節は世界で一番固い食品で、発こう食品でもあり、タンパク質は牛肉の三倍あるそうです。また、イノシン酸のうま味があって海外でも人気で、なんとフランスではかつお節作りが始ま

「たそうです。しかし、現在の日本では、高知、かご島、静岡の三県でしか生産されておらず、昔ながらのかつおかれ本節を高知で作っているのは、竹内さんの工場だけになってしまったと、さびしそうに、話してくれました。

ぼくは工場見学に行って、かつお節が昔ながらの伝統的な方法で、時間と手間をかけて作られていることを知りました。また、栄養豊富で安心な自然食品であることを学びました。ぼくは、日本や他の国にもっとかつお節工場ができて、かつお節のおいしさが世界中に広まるといいなと思いました。

日本の自由

W校　四年一組
佐々木　晴杜

ぼくは、夏休みに日本へ二ケ月間一時帰国しました。その内の三週間、アメリカに来る前にぼくが通っていた学校に通いました。この三週間で一番心にのこったのは放課後に友達だけで遊んだことです。

ぼくは、放課後に近くの公園に子供たちだけで遊びに行きました。母には帰る時間を約束して、友達と公園で待ち合わせをしました。ぼくたちは、公園全体を使ってみんなでおにごっこや、ドッジボール、キックベースなどをしました。そして、約

16×16

束の時間になったらきちんとそれぞれが帰宅しました。みんなにとってアメリカに住んでいるぼくにとっては、とても特別で自由な時間になりました。

アメリカでもこんな風に遊べたらいいなと思います。でもそれはできません。なぜならアメリカは、はんざいが多くあぶないため法律によって、子供だけで遊ぶことが禁止されています。子供たちだけで登校も、る守番も買物もできません。いつでもどこでも親といっしょにいなければなりません。だからアメリカにも日本と同じくらいに安全な国になっ

てほしいです。そうすれば、子供たちだけで自由に遊べるだけではなく、ほかにもたくさんのよいことがあると思います。

たとえば、交通ルールや、時間を守る習慣をつけることができるようになると思います。なぜなら、親がいつもいっしょにいると、子供は何も考えずに親についていくだけになりますが、子供たちだけだと、自分たちで交通ルールや何時に帰ればいいのかなど、自分たち自身で、考えるようになるからです。そうすれば、立派な大人になるために必要なことを身につけることができると思います。

ぼくは、この日本の小学校での体験を通じて、あらためて、日本が好きになりました。

16×16

色々な仕事を試してみて

L工校　四年二組
堀江　沙良

私は、今年の夏、いとこの心ちゃんを連れてキッザニアに行きました。キッザニアとは、色々なお仕事がけい験できる本当の街みたいな所です。私はきょう味のある仕事をいくつか試してみて、しょう来つきたい仕事をしぼるのに良い機会になりました。

私の最初のお仕事は、全日空のキャビンアテンダントでした。まず始めに、お客さんが飛行機に乗って来る時、

「ごとう乗ありがとうございます。」

と何度もあいさつをしながら、笑顔

でむかえました。それから、ライフジャケットの使い方を実せんして、お客さんに見せたり、「ようこそ」や天気などのことを機内アナウンスしました。また、お客さんが飛行機からおりる時、「ありがとうございました。」と笑顔でおいさつをしました。この仕事の良かったところは、あこがれのすてきなユニフォームを着られたこと、たくさんの人とせっすることができたこと、機内アナウンスが楽しかったことです。バイリンガルの私が、日本語と英語を使えるのも良いと思いました。でも、飛行機の事故があるとこわいので、しょう来仕

事ではやりたくないと思いました。

次に、クロックダンスをしました。クロックダンスでは、時間ごとに時計台の前でダンスをして、街のみんなに時間を知らせるのです。時計台の前に集まった先着二名の子供が、ダンスの後ベルを鳴らせることになっていて、私と心ちゃんが鳴らしました。全員がベルを鳴らせるわけではなかったので、私はとくした気分になりました。ダンスが好きだから楽しかったけれど、ダンスの仕事はあまり数が多くなさそうなので、しよう来の仕事にするのはむずかしいと思いました。

それから、私と心ちゃんは、クロ

16×16

ネコヤマトで配達員になりました。
地図をもらったけれど、読み方が分からなくて、街を歩いている人に道をたずねてしまいました。きちんとお仕事ができなかったから、本当はお給料をもらうべきではなかったのに、もらってしまいました。荷物を配達するお仕事は、思ったよりも楽ではないんだなあと思いました。街の中で迷子になって時間がかかりすぎて、お客さんにおこられるのがこわいので、しょう来配達員にはなりたくないと思いました。

色々試した中で、私が一番気に入ったのは病院のお仕事でした。それまで私は、小児科の医者になりたい

と思っていたので、医者の仕事を試してみたいと思っていました。正かくには医者ではなかったけれど、救急車の中で病気やけがをした人を助けるお仕事です。最初は、病院で心ぞうマッサージや人工呼吸などのトレーニングを受けました。これらの応急処置は思ったより簡単にできるようになりました。次に、大けがをした人を救急車でむかえに行き、心ぞうマッサージをして助けてあげました。この仕事の良かったところは、人の命を助けて、役に立てたことです。小児科医は前からきょう味があった仕事ですが、もっとやりたくなりました。それに、ニューヨー

16×16

クには、日本語が話せる小児科医がほとんどいないそうです。だから、バイリンガルの小児科医になりたいです。

このように、私はキッザニアで四つのお仕事をけい験して、色々なことを学びました。お仕事は楽しかったけれど、お金をもらって働くということは大変なんだなあと実感しました。そして、色々なお仕事を試して、私はやはり小児科の医者になりたいとしょう来の目標を固めることができて良かったです。このまま日本語の勉強をがんばり、バイリンガルの小児科医になって、日本人社会の役に立ちたいと思います。

16×16

イエローストーン国立公園

W対四年三組
中島陽斗

ぼくは、夏休みに、家族と、日本から来ているおじいちゃんとおばあちゃんといっしょに、イエローストーン国立公園とグランドティートン国立公園に行きました。ニューヨークからソルトレイクシティへい動した次の日、5時間ぐらい車で走って、イエローストーンに入りました。イエローストーンは、アメリカと世界で最初にできた国立公園で、ワイオミング州、モンタナ州、アイダホ州にまたがっています。そして、イエローストーンは、いっぱい自然があり、

たくさんの野生動物がいる所です。
ぼくはイエローストーンでバイソン
とエルクを見たいと思っていました。
車で少し走ると、たくさんの車が止
まっていて、多くの人が草原を見て
いる場所があり、ぼくたちも止まっ
て、草原の方を見てみました。遠か
ったので、そうがんきょうを使って
見てみると、ムースが二ひきいまし
た。すぐに野生動物を見れてうれし
かったけど、もっと近くで見れたら
よかったなと思いました。それから
また、車に乗って走っていると、も
う一度たくさんの車が止まっている
場所がありました。ぼくたちも止ま
って、今度は森の中を見みると、そ

16×16

ここには、大きくして茶色いバイソンがいました。バイソンはけがをしているようで、たおれていました。弟はバイソンがおそってくると思って、こわがっていたけど、ぼくは、こんなに近くで見れ感動しました。その後、有名なオールドフェイスフルに行き、その水がふん火するのを見ました。水はすごく高くふき上がり、一回だけだと思っていたけど、何回もふきあがったので、こうふんしました。だけど、水がふん火するまで長く待つ必要があり大変でした。

次の日、色々なガイザーを見ながら、マモスホットスプリングに行きました。そこでは、ホテルのすくそ

ばで、大きなシカを見ました。四日目には、キャニオンビレッジに向うと中で、ブラックベアを見つけました。すごい遠くの山の中にいたから、そうがんきょうで見てもちょっとしか見れませんでした。でも、ぼくはベアを見れと思っていなかったので、すごくうれしかったです。その後、ヘイデンバレーに行き、バイソンのむれを見ました。初めは遠くにいて、動いていなかったけど、だんだんと近くに来て、車が走っている道路を横切り、車がじゅうたいになりました。ぼく達の車もじゅうたいにまきこまれたけど、ぼく達の車のすぐ前をバイソンが横切ったから、すごく

16×16

こうふんし、そして、うれしかったです。ヘイデンバレーの最後の方で、森の中にいるグリズリーベアを車の中から見ました。ブラックベアよりもっと近くにいたので、よく見えました。

この旅行で、ぼくは、たくさん野生動物を見ることができて、すごいうれしかったです。バイソンは見れたけど、エルクを見ることができなくて残念でした。またいつか来て、今度はエルクに出会いたいと思います。